

資料3

国立教育政策研究所
教育政策・評価研究部長
小松 郁夫

1. 教員の指導力向上策について

「教育は人なり」とよく言われますように、学校教育の質の向上は、結局のところ、教員の指導力如何にかかっていると思います。課題の重要性に鑑み、私の勤務する国立教育政策研究所でも、今年度から4年計画で「教員の質の向上」に関する調査研究を実施いたします。具体的には、教員養成班、教員研修班、教員評価班の3班に分かれて、教員の養成 研修 人事、の連続的・系統的な政策研究として行う計画です。

福井県でも、『資料1』などに示されるような、さまざまな施策が実施されていることが分かりました。以下、この議題に関する私見を簡潔に書き添えます。

授業研究、授業評価の充実

教育方法学等の分野で、さまざまな授業研究や授業評価の研究が行われています。福井大学などとも協力をして、特に校内研修などの際に、優れた授業とはなにか、「総合的な学力」をのばすための教員の指導力の内実はどのようなものかなどについて、実践的な研究を更に進めて欲しいと思います。

全校的に指導力向上をめざす校長のリーダーシップ

教員の指導力は、教職の特性からしても、個々人の努力や研修に任せるだけでは、期待される成果は得られません。あくまで学校全体の協働体制の下での指導力向上が重要です。そのためには、管理職が指導力向上に関して、確固としたリーダーシップを発揮し、若手、中堅、ベテランそれぞれの多様な指導力や経験を学校全体の取り組みとして組織化できることが重要です。管理職研修などでのこうした研修の充実を期待します。

優秀教員報奨制度などの創設と活用

教育改革において、教員の指導力に関しては、マイナス・イメージの「指導力不足教員」問題などが先にクローズアップされ、プラス・イメージの優れた教員の状況把握や優秀教員を表彰するなどの議論が不十分ではないでしょうか。

諸外国の教員政策などを散見すると、教員のベストプラクティスの研究に熱心であり、ベスト・ティーチャー表彰制度などがあります。福井県では、ぜひ優れた教員の紹介や表彰、授業実践の紹介などを通して、プラス思考の教員政策を行って欲しいと思います。

2. 理科・数学教育の充実について

実験や実習など多彩な教育方法の開発と研修

理科や数学教育分野における実学的内容や実験などの体験的、操作的学習活動を重視する教育内容や教育方法を開発し、研修を積んで欲しいと思います。教育研究所などでの教材開発の成果をもっと活用しやすい形で普及させる工夫が必要ではないでしょうか。

ICTの活用

パソコンなどを活用して、興味深い理科や数学の情報、教材を学ぶようにしたらどうでしょうか。最近は博物館などのサイトも大変充実しています。